

教室の窓辺

地域の温かさの中で

豊川市立小坂井東小学校 教諭 岩下 雄哉

豊川市立小坂井東小学校は、旧東海道沿いに位置する小坂井町にあります。校区には、長く地域を支えてきた個人商店や施設が点在し、人々の思いが受け継がれて形づくられた町です。

本校では、『主体的に学び、自分の思いを表現できる小東っ子の育成』を研究主題とし、自ら課題を見つけ、解決に向けた活動を通して、情報活用能力と言語能力の育成に取り組んでいます。

2年生では、地域を学びの場とした生活科の単元『とび出せ！まちのたんけんたい』を春と秋の二度設定しました。長期間にわたる計画にもかかわらず、地域の商店や施設の方々は、訪問の依頼を快諾してくださいました。

春の探検では、商店や施設を訪れ、地域の方々の話を聞きます。校区全体を巡る中で、子どもたちは、自分たちの生活が多くの人々によって成り立っていることに気づくことができました。

秋の探検では、子どもたちの「もつと知りたいたい。」という思いを出発点に、訪問先を自分たちで選択し、グループを作ります。学習の見通しをもつ中で、「別の場所を選んだ2年生に伝えたい。」という子どもたちの思いをもとに、学年発表会を学習のゴールとし、各グループに分かれ、

準備を進めることにしました。

訪問当日、クリーニング店の方は、「子どもたちにクリーニングの機械を触らせてあげたい。」と、大切にされてきた機械を子どもたちに操作させてくださいました。また、地域に古くからある神社を訪れた子どもたちは、総代を務める方に「なぜ小坂井に神社があるんですか。」と尋ねました。すると、「昔の人が小坂井をずっと守っていきけるようにつくったんだよ。」と地域の先人たちの思いを教えてくださいました。

探検後は課題解決に向けて、探検を通して分かったことを「働く人」「施設」「お客さん」の三点に分けて整理し、いよいよ発表の準備です。本単元では、言葉で表現する力を育ててきました。伝えたいことが聞き手に届くように意識して、原稿作りや発表練習をしてきた結果、「学校

のみんなにも伝えたい。」という思いが子どもたちの中に生まれます。そして、学年での発表を経て、全校放送での発表にも挑戦しました。「緊張するけど、教えてもらったことを伝えたい。」と話す姿からは、地域の人々の思いを広げようとする温かい気持ちを感じられました。

地域に出会い、人々の思いにふれ、自分なりに考え、言葉にする。こうした学びの積み重ねを通して、子どもたちが自分の住む町に誇りをもち、町とのつながりの中で成長していくことを願っています。

今後、地域とともに歩む学校であることの価値を胸に、私自身も子どもたちとともに学び続け、実践を重ねていきたいと考えています。



クリーニング店主の話を真剣に聞く子どもたち



『とび出せ！まちのたんけんたい』
単元構想表

この生活科の取組では、子どもたちが目を輝かせて主体的に活動する姿が見られました。かわいらしいお客さんの訪問は、今ではすっかり少なくなりました。個人商店の方々には大変喜ばれます。誕生日ケーキが自慢の洋菓子店では、おそらく味や食感、デコレーションの工夫が大切なのだろうと思っていたのですが、日々気をつけていることは、第一に衛生、第二に分量のことでした。顔なじみの店主がそうした心構えで仕事をしていることを初めて知って、私も勉強になりました。

教職6年目を迎えた岩下教諭は、日頃、ICTの活用を牽引するとともに、人と人との対話を大切にしています。昔ながらの温かさや令和のスマートさを併せもった先生だと感じています。こうした先生が、学校の伝統と新しい教育をどのように調和させていくのか、今後の活躍が楽しみです。

(前校長 中嶋 桂)